

東海学園大学大学院 経営学研究科

修士論文審査基準

本大学院学位規程が定める申請要件等を満たして提出された修士論文およびリサーチペーパー（課題研究報告書）は、以下の審査体制・基準等によって審査する。

1. 審査体制

（1）審査委員

審査委員は、修士論文・リサーチペーパー（課題研究報告書）ごとに演習指導教員を主査とし、論文・報告書の内容に関連した大学院担当教員1名を副査とする。副査は演習指導教員が研究科長と協議し、大学院委員会で審議・決定する。

（2）中間報告会

修士2年次の春学期終了時点で、修士論文もしくはリサーチペーパー（課題研究報告書）の骨子・内容に関する中間報告会を行う。大学院担当教員がここにおいて、修士論文・リサーチペーパー（課題研究報告書）の内容が、後掲する審査基準に適合しているかどうかを確認し、必要な修正部分を指摘する。

（3）最終試験

修士論文またはリサーチペーパー（課題研究報告書）提出後、最終試験を行う。最終試験の審査は、審査委員が修士論文またはリサーチペーパー（課題研究報告書）を査読し、最終試験における口頭試問を含め、各委員が独立して評価する。各審査委員は、100点満点の持ち点で修士論文またはリサーチペーパー（課題研究報告書）を点数付けする（合格基準は60点以上）。なお、最終的な合否判定は、大学院委員会にて行う。

2. 修士論文審査基準

経営学研究科の修士論文審査基準は以下の通りとする。

（1）研究テーマの妥当性（学問的意義・適切性）

論文テーマが学術研究として位置づけられるとともに、論文の内容を的確に表現していること。

（2）問題の適切性

学術的な意義を意識した研究課題が設定されていること。

（3）論理の一貫性

論理的に一貫した考察がなされていること。

（4）研究方法

研究課題および研究対象にふさわしい研究方法が用いられていること。研究方法が学問的批判に耐えられる適切なものであること。

（5）体裁

学術論文にふさわしい形式（引用および参考文献の提示等）となっていること。なお、

論文の字数については、40,000 字以上とする。

(6) 先行研究との関連性（参考文献の適切性）

当該分野の代表的な先行研究を調査した上で、適切に課題設定されていること。

(7) 独創性（新規性）

考察の結果から得られた知見が、何らかの点で独創性（新規性）を有していること。

(8) 専門性

当該分野における高度な知識に基づいた考察がなされていること。

(9) その他

修学期間において、専攻分野に関して広い視野に立った研究成果に相当するものであること。

3. リサーチペーパー（課題研究報告書）審査基準

当該院生の職業上の問題意識に基づいたテーマを学術的に考察する場合、その成果をリサーチペーパー（課題研究報告書）として提出できることとする。基準は以下の通りとする。

(1) 課題研究テーマの妥当性（学問的意義・適切性）

課題研究テーマが学術的研究として位置づけられるとともに、課題研究の内容を的確に表現していること。

(2) 問題の適切性

学術的な意義を意識した研究課題が設定されていること。

(3) 論理の一貫性

論理的に一貫した考察がなされていること。

(4) 研究方法

研究課題および研究対象にふさわしい研究方法がとられていること。研究の方法が学問的批判に耐えられる適切なものであること。

(5) 体裁

学術論文にふさわしい形式（引用および参考文献の提示等）となっていること。なお、リサーチペーパー（課題研究報告書）の字数については、20,000 字以上とする。

(6) 先行研究との関連性（参考文献の適切性）

当該分野の代表的な先行研究を調査した上で、適切に課題設定されていること。

(7) 独創性（新規性）

考察の結果から得られた知見が、何らかの点で独創性（新規性）を有していることが望ましいが、少なくとも現状の課題に対する知見が明らかにされていること。

(8) 専門性

当該分野における高度な知識に基づいた考察がなされていること。

(9) その他

修学期間において、専攻分野に関して広い視野に立った研究成果に相当するものであること。